

介護福祉士実務者養成施設 情報開示項目リスト

情報開示の項目	内容
設置者の法人種別、名称並びに主たる事務所の所在地及び連絡先	株式会社HI-RON ひろケアスクール 〒653-0022 神戸市長田区東尻池町7丁目1番1号 君影ビル301 078-201-0083 Info@hiro-care-school.jp
法人の代表者の氏名	山下 博輝
介護福祉士養成施設以外の実施事業	喀痰吸引等研修
介護福祉士養成施設の名称、住所及び連絡先	株式会社HI-RON ひろケアスクール 〒653-0022 神戸市長田区東尻池町7丁目1番1号 君影ビル301 078-201-0083 Info@hiro-care-school.jp
介護福祉士養成施設の代表者の氏名	山下 博輝
介護福祉士養成施設の開設年月日	2025年9月1日
学則	同PDFファイルの別ページに掲載
養成課程のスケジュール（期間、日程、時間数）	同PDFファイルの別ページに掲載
定員	同PDFファイルの別ページに掲載
入所までの流れ（募集、申込、資料請求先）	ホームページ上に記載
費用	ホームページ上に記載
科目ごとのシラバス	同PDFファイルの別ページに掲載
使用する教材	実務者研修テキスト『実践を支える介護の知』（一般社団法人知識環境研究会） 「介護福祉士実務者研修テキスト」（中央法規出版） 第3巻 介護Ⅱ 介護過程 第5巻 医療的ケア

介護職員実務者研修授業概要

科目名	人間の尊厳と自立		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	5時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	尊厳の保持、自立の支援ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①人間の尊厳と自立		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の多面的な理解と尊厳	2.0	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など、介護の基本的な理念を理解する。 ○課題項目 尊厳、自立、自律、ノーマライゼーション、インクルージョン等人間を理解すること	
自立の支援	2.0		
人権と尊厳	1.0		
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	社会の理解Ⅰ（介護保険制度の理解）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	5時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	介護保険の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割を理解し、利用者等に助言できる。		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①介護保険制度		
授業項目	時間数	学習内容	
介護保険制度創設の背景と目的	1.0	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを学び、習得する。	
介護保険制度の基礎的理解	3.0	○課題項目	
介護保険制度における専門職の役割	1.0	高齢化、高齢社会におけるジェンダー、寝たきり問題、老老介護、介護保険法、法改正等	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	社会の理解Ⅱ（社会のしくみの理解）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	30時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。 ・ 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ・ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ・ 障害者総合支援法の体系、目的サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し利用者等に助言できる。 ・ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ①社会と生活のしくみ ②地域共生社会の現実に向けた制度や施策 ③社会保障制度 ④障害者総合支援法 ⑤実践に関する諸制度 		
授業項目	時間数	学習内容	
社会と生活のしくみ	3.0	<p>家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 労働、家族、地域社会における個人の生活構造、社会規範の変化、児童福祉法、社会福祉法、母子福祉法、憲法第25条、生活保護法、知的障害者福祉法、老人福祉法等</p>	
地域共生社会の実現に向けた制度や施策	2.0	<p>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得する。</p> <p>○課題項目 地域包括ケア、地域共生社会等</p>	
社会保障制度	10.0	<p>社会保障制度の発達、体系、財源などについての基本的知識を学び、習得する。</p> <p>○課題項目 社会福祉制度の体系、社会保険と民間保険の違い、社会扶助原則、年金保険等</p>	
障害者総合支援法	10.0	<p>障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者の負担、専門職の役割などを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約、障害者基本法改正、地域生活支援事業、障害福祉計画、自律支援給付、障害福祉サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、ライフサイクルからみた支援組織、障害者政策委員会等</p>	

介護実践に関する諸制度	5.0	<p>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービスなど、介護実践に関連する制度を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>健康日本21、伝染病予防法、性病予防法、後天性免疫不全症候群の予防に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核対策の諸制度、難病対策の諸制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度、虐待防止制度、消費者保護法、個人情報保護に関する制度、医療と介護に関する諸制度、医療行為の定義、介護福祉士と医療行為等</p>
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）	
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」	

介護職員実務者研修授業概要

科目名	介護の基本Ⅰ（介護福祉士と介護の考え方）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り・災害時等における介護福祉士の役割を理解している。</p> <p>・個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーションの考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度などを理解し、倫理を遵守している。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①介護福祉士の役割と機能</p> <p>②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</p> <p>③介護福祉士の倫理</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護福祉士の役割と機能	3.0	<p>介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>○課題項目 介護の歴史、介護の定義、医療と介護の連携強化、医学モデルから生活モデルへ、根拠のある介護へ、介護福祉士の制度化、専門職団体・学術団体としての役割、社会福祉士及び介護福祉士法等</p>	
尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	4.0	<p>個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーションなどの考え方をふまえ、尊厳の保持、自立に向けた介護の展開プロセス等を理解する。</p> <p>○課題項目 自立支援、自己選択・自己決定、個別ケア、リハビリテーション、リハビリテーションの動向、尊厳と介護の関係、QOL等</p>	
介護福祉士の倫理	3.0	<p>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法・制度などを理解し、倫理遵守について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 日本介護福祉士会倫理綱領、利用者の人権と介護、倫理判断の視点、倫理に則った介護の実践、尊厳ある介護の実践、個性性を重視した自立に向けた支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、生命倫理、高い倫理性等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	介護の基本Ⅱ（介護福祉士による介護実践）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ・介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<u>①介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> <u>②介護実践における連携</u> <u>③介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> <u>④介護従事者の安全</u>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護を必要とする人の生活の理解と支援	6.0	介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援課題を把握することを学び、習得する。 ○課題項目 生活習慣、生活障害と認知症、生活課題、利用者主体、人権・健康・安全な生活環境、快適で健康的な居住環境（WHOの定義）、居住空間を妨げる要因、くつろぎの生活環境等	
介護実践における連携	6.0	関連する職種や関係機関の役割、連携方法などチームアプローチについて学び、習得する。 ○課題項目 多職種連携、他職種の機能と役割の理解、他職種との連携の場面、地域連携、地域包括支援センター等	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	4.0	介護リスクの分析と事故防止、感染管理など、介護における安全確保について学び、習得する。 ○課題項目 リスクマネジメント、事故予防、安全対策、転倒予防、感染対策の3原則、感染対策とリスクマネジメント、感染症発生時の対応フロー等	
介護従事者の安全	4.0	介護従事者の健康管理や労働安全対策について学び、習得する。 ○課題項目 介護職の健康管理、こころの健康、ストレス、ケアハラスメント、ストレスマネジメント、施設運営上のリスクマネジメント、燃え尽き症候群、メンタルヘルス指針、腰痛予防、感染症予防、身体的疲労の管理、介護労働者の雇用管理の改善等に関する法律、安全衛生管理体制等	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	コミュニケーション技術		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ・チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ、フォロワーシップ等)に関する知識を理解し活用できる。 ・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化できる。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング (Web)」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<u>①介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> <u>②介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</u>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	10.0	<p>本人・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>コミュニケーション、パーソンセンタードケア、キットウッドのコミュニケーション技術、二者間コミュニケーション過程、ジョハリの窓、円環的因果律、利用者・家族との信頼関係形成、関心を向ける領域、関心を示す5つの基本動作、人を構成する5つの側面、生活支援とコミュニケーション、ソーシャルワーク、グループワークのコミュニケーション等</p>	
介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	10.0	<p>チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できるようになる。状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p> <p>○課題項目</p> <p>傾聴、共鳴、共感、同一視、利用者の感情表現の特性、老後の肯定的な側面、共感の技法、観察の視点、環境整備、共感に裏付けられた納得と同意、明確化の技法、焦点化の技法、直面化の技法、要約の技法、質問によるコミュニケーション、質問の種類、利用者・家族への指導、身近な相談相手の活用、相談援助の基本原則、意欲を引き出す技法、意向を調整する技法、ヒューマンサービス組織におけるチーム、チームの発展過程、チームワークの阻害要因、フリーライダー等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング (Web)」による修了評価70%以上で合格(70%未満の者は、再度修了評価を行う)		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	生活支援技術Ⅰ（自立に向けた生活支援技術の基本）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①生活支援とICF</p> <p>②ボディメカニクスの活用</p> <p>③生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</p> <p>④環境整備、福祉用具活用等の視点</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
生活支援とICF	2.0	<p>生活支援におけるICFの意義と枠組みを学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>生活、生活支援、障害老人の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準ライフコース、ライフサイクル、介護予防、介護予防の背景、介護予防システム、地域支援事業の内容、廃用症候群、廃用症候群の症状、生活における介護予防、レクリエーション、ICFについて、ICFの活用、ICFと介護過程、ストレングスモデル等</p>	
居住環境の整備と福祉用具の活用	2.0	<p>居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>福祉用具の定義、歴史と制度、選定ポイント、居住環境整備、バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険における住宅改修、施設における居住環境整備等</p>	
ボディメカニクスの活用	3.0	<p>ボディメカニクスを活用した介護の原則を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>ボディメカニクスの基本原則、ボディメカニクスの視点、力のモーメントとてこの原理、重心と支持基底面積、摩擦力、慣性力、姿勢、動作、人間の基本姿勢等</p>	
生活支援技術の基本	13.0	<p>自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>生活支援における介護技術、介護技術のポイント、介護技術実践におけるチェックポイント、身じたく、口腔ケア、衣服着用、整容、移動、車いす、杖歩行、食事、誤嚥・窒息、脱水症状、入浴・清潔、排せつ、睡眠、ターミナルケア等</p>	

評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」

介護職員実務者研修授業概要

科目名	生活支援技術Ⅱ（利用者の心身の状態に応じた生活支援技術）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	30時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 <u>環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用。</u></p>		
授業項目	時間数	学習内容	
<p>利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具等の活用 	30.0	<p>以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具等の活用 <p>○課題項目</p> <p>基本確認 利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術について事例検討</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術について事例検討 (2) 利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術について事例検討 (3) フィードバック等 	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	介護過程Ⅰ（介護過程の基礎的理解）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<u>①介護過程の基礎的知識</u> <u>②介護過程の展開</u> <u>③介護過程とチームアプローチ</u>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護過程の基礎的知識	4.0	介護過程の目的、意義、展開等を学び、理解する。 ○課題項目 介護過程、介護過程の実際等	
介護過程の展開	8.0	介護過程を踏まえ、目標に向けて計画的に介護を行うことを学び、習得する。 ○課題項目 情報収集とアセスメント、アセスメントの視点、計画立案、目標設定、介護実践、目標確認・判断、記録、介護計画の評価、評価のポイント等	
介護過程とチームアプローチ	8.0	チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する。 ○課題項目 ケアマネジメント、ケアマネジメントの歴史、ケアマネジメントの対象、社会資源とケアマネジメント、ケアプランの立案、個別援助計画、介護過程と職種間の連携、エコマップ等	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	介護過程Ⅱ（介護過程の展開の実際）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	25時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	・情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>介護過程の展開の実際</p> <p>①利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程を展開させる。</p> <p>②観察のポイント、安全確保、事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護職による介護過程の進め方	2.0	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しについて学び、習得する。	
介護過程の実践的展開	13.0	<p>○課題項目</p> <p>介護過程の展開についての事例検討（1）</p> <p>介護過程の展開についての事例検討（2）</p> <p>介護過程の展開についての事例検討（3）等</p>	
演習課題	10.0	<p>介護老人福祉施設で生活するGさんの事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Gさんのフェイスシート ・Gさんのアセスメント表(1) ・Gさんのアセスメント表(2) ・Gさんの介護計画書 	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	介護過程Ⅲ（介護過程の展開の実践）		
授業の種類	面接授業	時間数(単位数)	45時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者研修で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 		
授業全体の内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の基礎知識と応用 ・利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 ・演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ） ・テキスト・プリントの事例に基づいた介護技術の評価 ・試験実施、解説 		
授業の目的・ねらい	<p>①介護過程の展開の実際 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。</p> <p>②介護技術の評価 介護技術の原理原則の習得・実践とともに知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
介護の基本Ⅰ	1.5	実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できるようにする。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できるようにする。介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができるようにする。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができるようにする。	
介護の基本Ⅱ	1.5		
コミュニケーション技術	1.5		
生活支援技術	1.5		
介護過程Ⅰ	3.0		
介護過程Ⅱ	3.0		
利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	3.0	○課題項目 実務者研修課程で学んだ知識・技術の確認 多様な事例を設定した介護過程の展開 知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力等	

<p>事例1：片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援</p>	<p>7.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Aさんのフェイスシート ・Aさんのアセスメント表（1） ・Aさんのアセスメント表（2） ・Aさんの介護計画書 ・Aさんの実施評価票 ・【解説】Aさんの介護過程について ・演習～Aさんの自立に向けた介護の実践（移動・移乗の介護）～ ・確認・評価してみよう！
<p>事例2：在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援</p>	<p>7.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Cさんのフェイスシート ・Cさんのアセスメント表（1） ・Cさんのアセスメント表（2） ・Cさんの訪問介護計画書 ・Cさんの実施評価票 ・【解説】Cさんの介護過程について ・演習～Cさんの自立に向けた介護の実践（食事、身だしなみ、排泄の介護）～ ・確認・評価してみよう！
<p>事例3：都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援</p>	<p>7.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Eさんのフェイスシート ・Eさんのアセスメント表（1） ・Eさんのアセスメント表（2） ・Eさんの訪問介護計画書 ・Eさんの実施評価票 ・【解説】Eさんの介護過程について ・演習～Eさんの自立に向けた介護の実践（移動・移乗、排泄の介護）～ ・確認・評価してみよう！

<p>事例4：介護老人保健施設で生活する利用者への支援</p>	<p>7.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプロフィール ・家族構成および生活歴 ・現在の状況 ・Gさんのフェイスシート ・Gさんのアセスメント表（1） ・Gさんのアセスメント表（2） ・Gさんの介護計画書 ・Gさんの実施評価票 ・【解説】Gさんの介護過程について ・演習～Gさんの自立に向けた介護の実践（衣服の着脱、入浴の介護）～ ・確認・評価してみよう！
	<p>実技試験 60点以上で合格 実技試験の合格により科目の修了を認定する。 （実技59点以下者は再評価を行う）</p>	
<p>使用テキスト</p>	<p>一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」 中央法規出版株式会社「介護福祉士実務者研修テキスト第3巻」</p>	

介護職員実務者研修授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅠ（介護に関連するからだのしくみ）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	・介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①介護に関係した身体の仕組みの基本的な理解 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)		
授業項目	時間数	学習内容	
移動・移乗に関連するからだのしくみ	4.0	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得する。 ○課題項目 目（視覚）、耳（聴覚）、皮膚（触覚）、口腔・舌（味覚）、呼吸器系、内分泌系、バイタルサイン、血液、泌尿器系、生殖器等	
食事に関連するからだのしくみ	3.0		
入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	3.0		
排泄に関連するからだのしくみ	3.0		
着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	4.0		
休息・睡眠に関連するからだのしくみ	3.0		
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅡ（心身の構造・機能と介護における観察のポイント）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	60時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・人間の基本的欲求、学習、記憶等に関する基礎的知識を習得している。</p> <p>・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。</p> <p>・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①人間の心理		
	②人間の構造と機能		
	③身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察、アセスメントのポイント、連携等の留意点(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階のケア)		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の心理	10.0	<p>人間の基本的欲求、学習・記憶などこころのしくみを学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>からだところとの関係、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、新行動主義、精神分析学、防衛機制、神経細胞と神経伝達物質、マズローの欲求の階層説、欲求不満・適応、適応機制、ストレス、意識、心理学における学習、観察学習、レスポナント条件付け・条件反射実験、強化、消去、オペラント条件付け、感情、感情障害、認知的徒弟制、動機、記憶、情報処理モデル、知能測定法、調査方法論等</p>	
人体の構造と機能	14.0	<p>生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等人体の構造と機能についての基本的な知識を習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>消化器系、ブリストル便形状スケール、循環器系、DNA・遺伝、ホメオスタシス、睡眠、死、こころの変化、からだの変化、骨格系、筋肉、神経系、脳等</p>	
身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階のケア	36.0	<p>身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</p> <p>○課題項目</p> <p>基本確認</p> <p>こころとからだのしくみについての事例検討（1）</p> <p>こころとからだのしくみについての事例検討（2）</p> <p>こころとからだのしくみについての事例検討（3）</p> <p>フィードバック等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	発達と老化の理解Ⅰ（老化に伴うところとからだの変化）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響		
授業項目	時間数	学習内容	
老化に伴う心の変化と日常生活への影響	4.0	老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解する。 ○課題項目 老化の原則、老化に伴うところの変化とその影響、老化に伴うところの疾病、老化に伴うところの障害、高齢者の知能等	
老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	6.0	老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解する。 ○課題項目 老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響、老化に伴うからだの疾病、老化に伴うからだの障害等	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	発達と老化の理解Ⅱ（老年期の発達、成熟と健康）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</p> <p>・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。</p> <p>・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①人間の成長・発達</p> <p>②老年期の発達・成熟と心理</p> <p>③高齢者に多い症状・疾病等と留意点</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
人間の成長・発達	3.0	<p>ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>発達とは、発達段階と発達課題、フロイトの心理的・性的発達の理論、ピアジェの認知発達理論、エリクソンのライフサイクル理論、生涯発達過程に対する3つの影響等</p>	
老年期の発達・成熟と心理	3.0	<p>老年期の発達課題、こころの課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつなど）と支援上の留意点について理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>高齢社会の定義、高齢者、老年期における性格の変化、人格タイプと高齢期への適応、補償プロセス、高齢期のセクシュアリティ、ハーヴィーガーストの発達課題、ラスレットのサードエイジ、プロダクティブエイジング、高齢者の3つの危機、定年退職後の男性のタイプ、ビッグファイブ（主観的幸福感）、ロートンのQOL、サクセスフルエイジング、PGCモラールスケール等</p>	
高齢者に多い症状・疾病等と留意点	14.0	<p>高齢者に多い症状・疾病などと支援の留意点について理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>基本確認</p> <p>高齢者に多い症状・疾病について事例検討（1）</p> <p>高齢者に多い症状・疾病について事例検討（2）</p> <p>高齢者に多い症状・疾病について事例検討（3）</p> <p>フィードバック等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	認知症の理解Ⅰ（認知症の基礎的理解）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ・ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ・ 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①認知症ケアの理念</p> <p>②認知症による生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>③認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
認知症ケアの理念と視点	3.0	<p>認知症ケアへの取組の経過をふまえ、今日的な認知症ケアの理念を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>認知症とは、認知症の症状、認知症ケアの歴史、地域住民による認知症の理解等</p>	
認知症による生活障害、心理・行動の特徴	4.0	<p>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>B P S D、認知症による障害、認知症の類似症状等</p>	
認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本	3.0	<p>認知症の人やその家族との関わり方・支援の基本を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>認知症ケア、感覚を刺激する関わり、認知症の進行に沿う関わり、認知症症状の観察、生活スペースの区分、環境の調整、日常生活場面の支援等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	認知症の理解Ⅱ（認知症の医学的理解と支援の実際）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ・ 認知症の人の生活歴、疾患、家族、社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人や家族への支援の実際		
授業項目	時間数	学習内容	
医学的側面からみた認知症の理解	10.0	認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療などについて医学的知識を学び、習得する。 ○課題項目 医学的側面から見た認知症の理解、認知症とは何か、心理検査等	
認知症の人や家族への支援の実際	10.0	認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 ○課題項目 基本確認 認知症の人・その家族への支援の事例検討（1） 認知症の人・その家族への支援の事例検討（2） 認知症の人・その家族への支援の事例検討（3） フィードバック等	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	障害の理解Ⅰ（障害の基礎的理解）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	10時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・ 障害の概念や変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>・ 障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害・心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>・ 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①障害者福祉の理念</p> <p>②障害による生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>③障害のある人やその家族へのかかわり・支援の基本</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
障害者福祉の理念	3.0	<p>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害の概念と定義、ICIDH、国内法における生涯の定義、国連の宣言における人権思想、ノーマライゼーション、自立生活（IL）運動、インクルージョン等</p>	
障害による生活障害、心理・行動の特徴	5.0	<p>障害（身体・知的・精神・発達障害・難病など）による生活上の問題、心理・行動の特徴を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害がおよぼす心理的影響、障害の受容、価値転換論、ステージ理論、上田敏理論、精神分析等</p>	
障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本	2.0	<p>障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>家族支援の視点、家族の障害受容、ライフステージと家族、障害児家族のレスパイト、セルフヘルプグループ等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	障害の理解Ⅱ（障害の医学的理解と支援の実際）		
授業の種類	通信授業	時間数(単位数)	20時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<p>・ 様々な障害の種類・原因・特性・障害に伴う機能の変化等について医学的知識を習得している。</p> <p>・ 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>		
授業全体の内容の概要	「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価		
授業の目的・ねらい	<p>①医学的側面からみた障害の理解</p> <p>②障害の特性に応じた支援の実際</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
医学的側面からみた障害の理解	15.0	<p>障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化などについて医学的知識を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害者に対する介護の基本的視点、エンパワメント、アドボカシー、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、麻痺、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病、高次脳機能障害等</p>	
障害の特性に応じた支援の実際	5.0	<p>障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができるようにする。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できるようにする。</p> <p>○課題項目</p> <p>地域におけるサポート体制、障害児者への支援の実際、補装具・日常生活用具による日常生活支援、居住支援、就労支援、経済基盤の保障等</p>	
評価の方法および基準	「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）		
使用テキスト	一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」		

介護職員実務者研修授業概要

科目名	医療的ケア		
授業の種類	通信授業50時間・面接授業13時間	時間数(単位数)	63時間
担当講師	調整中	必須・選択	必須
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。 ・医療的ケアに関する法制度や倫理等を理解している。 ・感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。 ・呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識をりかいしている。 ・喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ・喀痰吸引の実施手順（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）を理解している。 ・消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解している。 ・経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ・経管栄養の実施手順（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養）を理解している。 ・喀痰吸引のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ・経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ・救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。 		
授業全体の内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「eラーニング（Web）」による練習問題での自己学習と修了評価 ・シミュレーターによる喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）の演習各5回以上 ・シミュレーターによる経管栄養（胃ろうまたは腸ろう・経鼻経管）の演習各5回以上 ・救急蘇生法演習 		
授業の目的・ねらい	<p>①医療的ケア実施の基礎</p> <p>②喀痰吸引（基礎的な知識・実施の手順）</p> <p>③経管栄養（基礎的な知識・実施の手順）</p> <p>④演習</p>		
授業項目	時間数	学習内容	
通信：医療的ケア	5.0	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の欲求の基本的理解 2. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 3. 医行為について 4. その他の制度 	
通信：安全な療養生活	5.0	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 2. 救急蘇生 	

通信：清潔保持と感染予防	4.0	1. 感染予防 2. 介護職の感染予防 3. 療養環境の清潔、消毒法 4. 消毒と滅菌
通信：健康状態の把握	4.0	1. 身体・精神の健康 2. 健康状態を知る項目（バイタルサインなど） 3. 急変状態について
通信：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	10.0	1. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論
通信：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	6.0	1. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
通信：高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	10.0	1. 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
通信：高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	6.0	1. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
喀痰吸引のケア実施の手引き	6.0	1. 口腔内および鼻腔内 2. 気管カニューレ内部
経管栄養のケア実施の手引き	6.0	1. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 2. 半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 3. 経鼻経管栄養
救急蘇生法の手引き	1.0	1. 救急蘇生法 2. AED使用の手順
評価の方法および基準		<p>【通信】「eラーニング（Web）」による修了評価70%以上で合格（70%未満の者は、再度修了評価を行う）</p> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部） 各研修受講者毎、かつ、各評価項目毎に評価判定基準（ア、イ、ウの3段階）で演習指導講師が評価し、5回目以上の回で、全ての評価項目において全て「ア」評価となること ・経管栄養（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養） 各研修受講者毎、かつ、各評価項目毎に評価判定基準（ア、イ、ウの3段階）で演習指導講師が評価し、5回目以上の回で、全ての評価項目において全て「ア」評価となること <p>※通信・演習（喀痰吸引・経管栄養）、両方の合格により、科目の修了を認定する</p>
使用テキスト		一般社団法人知識環境研究会実務者研修テキスト「実践を支える介護の知」 中央法規出版株式会社「介護福祉士実務者研修テキスト第5巻」

ひろケアスクール

介護福祉士実務者研修学則

1. 研修事業の名称

名称 ひろケアスクール

介護福祉士実務者研修（通信課程）

所在地 兵庫県神戸市長田区東尻池町7丁目1番1号 君影ビル301

2. 設置目的

ひろケアスクール介護福祉士実務者研修（以下、実務者研修という）

は、幅広い介護ニーズに対応できる質の高い介護人材を育成することを目的とする。

専門的な知識と技術の習得と、将来的に介護福祉士を目指すことを支援します。

3. 会場の位置

神戸会場 神戸市垂水区下畑町西砂山 301-1 フローラルヴィラ垂水

豊岡会場 豊岡市泉町 7-30 特定非営利活動法人銀ちゃんの家

西脇会場 西脇市野村町 1380 ハピネスコート研修室

龍野会場 龍野市揖保川町正條 354 番地 1 たつの市総合文化会館

朝来会場 朝来市山東町楽音寺 95 番地 山東生涯学習センター

宍粟会場 宍粟市山崎町鹿沢 65 番地 3 宍粟防災センター

養父会場 養父市八鹿町八鹿 538 番地 1 養父市立やぶ市民交流広場

丹波会場 丹波市山南町野坂 211-5 老人保健施設さんなん桜の里

4. 開講時期、研修期間及び在籍年数

5月1日～11月30日	神戸会場	豊岡会場
6月1日～12月31日	西脇会場	養父会場
7月1日～1月31日	朝来会場	宍粟会場
8月1日～2月28日	龍野会場	丹波会場

研修期間は、保有資格により1か月～6か月とする。

やむを得ない事情で休学する場合は、最大在籍年数を1年間とする。

5. 休業日

夏季休業 8月12日～8月15日

年末年始 12月30日～1月5日

6. 教育課程、講義時間数、履修方法

実務者研修は、通信課程とする。

介護過程Ⅲと医療的ケア演習のみスクーリングで行うものとする。

修了するために履修しなければならないカリキュラムは、次の表の通り

とする。

課題の提出方法は、「eラーニング (Web)」とする。

保有資格別受講科目一覧			介護職員 基礎研修	ホームヘルパー (訪問介護員研修)			介護初任 者研修	無資格
	時間数	1級		2級	3級			
自宅 学習	1 人間の尊厳と自立	5	—	—	—	—	—	○
	2 社会の理解Ⅰ	5	—	—	—	—	—	○
	3 社会の理解Ⅱ	30	—	—	○	○	○	○
	4 介護の基本Ⅰ	10	—	—	—	○	—	○
	5 介護の基本Ⅱ	20	—	—	—	○	○	○
	6 コミュニケーション技術	20	—	—	○	○	○	○
	7 生活支援技術Ⅰ	20	—	—	—	—	—	○
	8 生活支援技術Ⅱ	30	—	—	—	○	—	○
	9 介護過程Ⅰ	20	—	—	—	○	—	○
	10 介護過程Ⅱ	25	—	—	○	○	○	○
	11 発達と老化の理解Ⅰ	10	—	—	○	○	○	○
	12 発達と老化の理解Ⅱ	20	—	—	○	○	○	○
	13 認知症の理解Ⅰ	10	—	—	○	○	—	○
	14 認知症の理解Ⅱ	20	—	—	○	○	○	○
	15 障害の理解Ⅰ	10	—	—	○	○	—	○
	16 障害の理解Ⅱ	20	—	—	○	○	○	○
	17 ことごとからだのしくみⅠ	20	—	—	—	○	—	○
	18 ことごとからだのしくみⅡ	60	—	—	○	○	○	○
	19 医療的ケア	50	○	○※	○※	○※	○※	○※
通信科目数			1	1	11	16	10	19
通学	介護過程Ⅲ	45	—	○	○	○	○	○
	医療的ケア演習	規定回数	○	○※	○※	○※	○※	○※
	通学日数			2日	8日	8日	8日	8日
受講期間				1カ月	3カ月	3カ月	3カ月	6カ月

○実務者研修で学ぶ科目

—免除項目科目

※喀痰吸引等研修(1号・2号) 修了者は免除項目科目

7. 受講資格

介護サービスに従事している者、または従事しようとする者。

8. 受講者の選考

《定員》

神戸会場・豊岡会場・西脇会場・養父会場・朝来会場・宍粟会場・龍野会場・丹波
会場

各10名の8学級80名とする。

《通信養成を行う地域》

全国

但し、面接授業のスクーリング会場まで通学可能な範囲内

《申込みに必要な書類》

(1) 申込書

(2) 訪問介護員（ホームヘルパー）、初任者研修、喀痰吸引等研修

等修了者は、保有資格の資格証のコピー

《受講者の決定》

開講の3週間前に申し込みを終了とする。

申し込みに必要な書類が到着次第、先着順とし、定員になり次第締め切りとする。

すでに定員に達している場合は、キャンセル待ちとし、空きができた場合、順次連絡する。

※受講できない場合も、申込書等受付書類は返却しないものとする。

9. 受講手続き

受講決定者には、受講決定通知書をメールまたは郵送する。

受講決定通知書に記載されている期日までに所定の受講料を支払わなければならない。

振込手数料は、受講生負担とする。

10. 休学

受講生が疾病、事故、その他やむを得ない事由によって受講できない場合は、休学届にその事由を明らかにする書類(診断書など)を添えて提出し、養成施設長の許可を得なければならない。

休学期間は、通算して1年を超えることができない。

超えた場合は退学しなければならない。

休学期間は、在学期間に算入しない。

1 1. 復学

休学中の受講生が復学しようとするときは、復学届を提出し、養成施設長の許可を得なければならない。

休学期間内に受講できなかった講義は、在籍期間中に、本校が開講している研修にて補講を受けることとする。

この場合、補講にかかる受講料は徴収しない。

在籍期間内に定められた講義を受けることができなかった場合は、退学しなければならない。

1 2. 退学

受講生が疾病、事故、その他やむを得ない事由によって退学しようとするときは、その事由を記載した書類を提出し、養成施設長の許可を得なければならない。

1 3. 賞罰

受講生が次のいずれかに該当する場合は、当該受講生の受講を取り消すことができる。受講を取り消された者は、その間に履修した研修については、すべて無効とする。

- ・学習意欲が著しく欠け、修了の見込みがないと認められるもの
- ・学習態度が著しく悪く、カリキュラムの進行を妨げるもの
- ・他の受講生の学習を著しく妨げるもの
- ・自力で演習内容を行うことができないもの

・その他、当スクールが不相当とみなしたもの

1 4. 使用教材

実務者研修テキスト『実践を支える介護の知』

「介護福祉士実務者研修テキスト」（中央法規出版）

第 3 巻 介護Ⅱ 介護過程

第 5 巻 医療的ケア

1 5. 学習の評価

学習の評価は以下のとおりとする。

1. 通信授業は、一般社団法人知識環境研究会「eラーニング（Web）」を使用する。

選択問題…eラーニングシステム上で各科目ごとに1回以上行い、

採点、評価等を行う。

記述問題…講師が添削し、スクーリングで個々の受講生の理解度に

応じた指導を行う。

（介護過程Ⅲ開始までにモジュールA～Hを終了していること、

医療的ケア演習開始までにモジュールIを終了していること）

修了評価は、各単元正答率70%以上を合格とする。

2. スクーリング（8日間のスクーリングを行う。）

①介護過程Ⅲ（6日間のスクーリングを行う。）

介護過程の基礎知識と応用の講義、事例を用いた介護過程の展開を

グループワーク・ロールプレイで実施する。

修了評価は、実技試験60点以上で合格とする。

② 医療的ケア演習（2日間のスクーリングを行う。）

演習で喀痰吸引（口腔内5回以上、鼻腔内5回以上、気管カニューレ内部5回以上）、経管栄養（胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻経管5回以上）、救急蘇生法（1回以上）を行い、喀痰吸引、経管栄養において5回目の演習で合格基準に達すること。修了評価は、各評価項目毎に評価判定基準（ア、イ、ウの3段階）で演習指導講師が評価し、5回目以上の回で、全ての評価項目において全て「ア」評価となることで合格とする。

16. 課程修了の認定

課程修了の認定は以下のとおりとする。

①受講料を全額支払っていること。

②通信課題にすべて合格すること。

（合格点は、100点満点中70点以上）

添削課題が合格点に満たない場合は、添削コメントを参考に、定められた期間までに合格点に達するまで再提出すること。

③スクーリングにすべて出席すること。

出席状況は、出席簿で把握する。

④介護過程Ⅲ、実技の評価で合格すること。

（合格点は、100点満点中60点以上）

不合格の場合は、追試を行う。2回目の追試は当日行い、追試料は徴収しない。3回目の追試は、レポートを提出後別日に行う。追試料は、11,000円（税込）とする。

⑤医療的ケア

演習で喀痰吸引（口腔内 5 回以上、鼻腔内 5 回以上、気管カニューレ内部 5 回以上）、経管栄養（胃ろうまたは腸ろう 5 回以上、経鼻経管 5 回以上）、救急蘇生法（1 回以上）を行い、喀痰吸引、経管栄養において 5 回目の演習で合格基準に達すること。不合格の場合は、追試を行う。追試 3 回目（8 回目）までは当日行い、追試料金は徴収しない。

4 回目（9 回目）の追試は、レポート提出後別日に行う。

追試料は、11,000 円（税込）とする。

所定の課程をすべて修了した者には、修了証明書を交付する。

修了証明書の紛失があった場合は、修了者が再発行を申し出ることができる。再発行にかかる料金は、1 枚につき 2,200 円（税込）とし、修了者が負担をする。

17. 遅刻、早退、欠席、補講

遅刻 事故などにより公共交通機関が遮断された場合や、自然災害で遅刻した場合

①始業時刻より 15 分以内は、受講可能。（証明書などの提出が必要）

②始業時刻より 30 分以内は、受講可能。

（証明書の提出とレポートの提出が必要）

③始業時刻より 30 分以上は、補講を受講する。

早退 終了時刻より 30 分以上は、補講を受講する。

欠席 補講を受講する。

補講 臨時で開催する。日程が決まったら受講生に連絡する。

補講料は、1時間（講義、レポート採点等）につき

5,500円（税込）とし、補講開始前に現金で支払うこと。

18. 受講料

保有資格	受講料（テキスト代込・税込）
無資格	120,000円
訪問介護員3級	110,000円
訪問介護員2級	90,000円
介護職員初任者研修	
訪問介護員1級	60,000円
介護職員基礎研修	40,000円
無資格＋喀痰吸引等研修（1号.2号）	90,000円
訪問介護員3級＋喀痰吸引等研修（1号.2号）	80,000円
訪問介護員2級＋喀痰吸引等研修（1号.2号）	60,000円
介護職員初任者研修＋喀痰吸引等研修（1号.2号）	
訪問介護員1級＋喀痰吸引等研修（1号.2号）	30,000円

※ひろケアスクールオリジナル割引を行うこともある。

支払方法は、現金一括払いとする。

19. 受講料の返還について

納付された受講料は原則として返還しない。

20. 教職員の組織

以下の教員を置く。

- (ア) 養成施設長
- (イ) 教務に関する主任者
- (ウ) 専任教員

- (エ) 介護過程Ⅲを担当する講師
- (オ) 医療的ケアを担当する講師
- (カ) 事務職員

2 1. 個人情報の取り扱い

研修運営上知り得た受講生等の個人情報（入学、卒業、成績、出席状況等、受講生に関する書類）は厳重に管理保存し、実務者研修に関する運営等の必要最低限の範囲で適切に取り扱いをする。

2 2. 研修の中止・延期

自然災害や非常事態時などやむを得ない事情により、研修の実施が困難と判断した場合は、研修の中止または延期の措置をとることとする。この場合、新たな日程を設けるなど受講生の不利益にならない措置を講じることとする。

2 3. 苦情等の窓口

研修に関して以下のとおり苦情などの、窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情および事故が生じた場合には、迅速に対応する。

苦情対応窓口 株式会社H I—RON ひろケアスクール

電話 (078)201—0083